



# ツネログ

#02 2024年10月号

SAMURAI BLUE(日本代表)が素晴らしいスタートを切ってくれました。FIFAワールドカップ26アジア最終予選(3次予選)が始まり、中国代表を埼玉スタジアム2002に迎えた初戦を7-0で勝利しました。試合の入りこそちょっと硬いかなとも感じましたが、先制点を取れたことでだいぶほぐれたように見えました。4点取ろうが5点取ろうが決して気を抜くことなく、“絶対にカウンターは食らわない”というチームの強い覚悟も伝わってきました。

もちろん最終予選は決して簡単な道のりではありません。欧州でプレーする選手がメンバーの大半を占めるなか、移動や時差を含めてコンディションを調整しながら試合に臨んでいく難しさとも戦っていくことになります。JFAとしても出来る限りのサポートをしたいと考えています。代表チームにはこの日の中国戦のようなテンションをずっとキープして戦ってほしいですね。しっかりと試合にコミットしつつ、いろんな選手の組み合わせによってチーム力を高めていくという作業にも取り組んでほしいと思っています。

代表チームで長らくキャプテンを務めてきた長谷部誠コーチ(アイントラハト・フランクフルト)が、日本代表コーチに就任してくれました。欧州のスタンダードをより共有できるという点においても大きな存在になっているように感じます。

同じグループCにおいては初戦でオーストラリア代表がバーレーン代表にホームで敗れ、サウジアラビア代表はインドネシア代表に引き分けています。一発目の試合の難しさをあらためて感じるとともにアジアの出場枠が「8.5」に増えたことで、どのチームも目の色を変えて最終予選に臨んでいる印象を受けました。

8月にはパリオリンピックを現地で視察しました。男子も女子も残念ながらメダルには届きませんでしたが、よく戦ってくれたと思います。パリでは国際サッカー連盟のGianni Infantino会長と会談し、2031年のFIFA女子ワールドカップを日本で開催したいと直接、意欲を伝えることができました。アピールを続けていくことが大切ですから。

日本に帰国してからの印象深いトピックで言えば、視察したJFAバーモンドカップ第34回全日本U-12フットサル選手権大会でしょうか。フットサルを通じて子どもたちは技術力をより高めていくことができ、磨いてきたテクニックを発揮できる貴重な場だと感じました。

代表の最終予選は10、11月と続きますが、なでしこジャパン(日本女子代表)も10月26日に「MIZUHO BLUE DREAM MATCH2024」として国立競技場で韓国女子代表と試合を行うことが決まりました。良いスタートを切ってほしいと願っています。ぜひなでしこジャパンにも注目していただければと思います。

公益財団法人 日本サッカー協会 会長

宮市恒靖

# 会長の活動報告

2024年7月19日～9月19日(抜粋版)

7/24(水)～8/3(土)

## 第33回オリンピック競技大会(2024/パリ)



なでしこジャパン、U-23日本代表ともにグループステージを突破。残念ながらメダルには届きませんでしたが、世界の強豪国と互角に戦う姿を見て、日本サッカーの成長を実感しました。

(写真は女子サッカー日本vs.ブラジル戦)

8/5(月)

## FIFA Gianni Infantino会長とミーティング (フランス/パリ)



FIFAのパリオフィスでInfantino会長と世界のサッカーの現状や今後について議論をしました。

「FIFA Forward」(サッカーの普及や発展を目的とするFIFAの助成金プログラム)における日本の活動はとても高い評価を受けています。今後もFIFAやAFCとの情報交換に力を注いでいきます。

8/15(木)

## バーレーンサッカー協会のH.E. Shaikh Ali bin Khalifa AL KHALIFA会長とミーティング(JFAハウス)

8/18(日)

## JFAバーモントカップ第34回全日本U-12 フットサル選手権大会(武蔵野の森総合スポーツプラザ)



U-12年代の選手たちがフットサルをプレーする姿を見て、技術のレベルはもちろん、「サッカーIQ」も上がっていると感じました。戦術的に訓練されていて、相手の逆を取る、意表を突くプレーが多かった印象です。U-12年代はテクニックがどんどん伸びる世代。フットサルを通じてプレーの幅を広げることの重要性を再認識しました。

9/1(日)

## [文京区相互協力協定] 移動式ゴール寄贈式(小石川運動場)

9/5(木)

## 47FA代表者会議(JFAハウス)



JFAより登録制度改革、一括補助金、施設助成金、テラーメイドのサポートプログラムなどについて説明。終了後にはFIFAワールドカップ26アジア最終予選を視察いただきました。各都道府県での取り組みがSAMURAI BLUE、なでしこジャパンにつながっています。今後もこのような機会を継続してつくっていきたいと考えています。

9/5(木)、10(火)

## FIFAワールドカップ26アジア最終予選(3次予選) vs. 中国(埼玉スタジアム2002) vs. バーレーン(バーレーン/リファア)



FIFAワールドカップ2026を目指すアジア最終予選が始まり、中国、バーレーンを相手に2連勝と幸先の良いスタートを切ることができました。アジアからの出場枠が8.5に増えたとはいえ、道のりは決して簡単なものではありません。JFAとしてもSAMURAI BLUEに最大限のサポートをしていきます。

9/13(金)、14(土)

## 47FA訪問会議(島根県・鳥取県)



47FA訪問会議が島根県、鳥取県からスタートしました。島根では行政の首長を表敬訪問し、2030年に国民スポーツ大会少年男子の部で主力となるU-10年代のトレーニングにも参加しました。また、鳥取では芝生の取り組みを視察させていただきました。来夏までに全ての都道府県をまわり、それぞれの課題を共有できればと考えています。

9/15(日)

## 2024-25 SOMPO WEリーグ 第1節 日テレ・東京ベレーザvs.浦和レッズレディース (味の素フィールド西が丘)



4年目を迎えるWEリーグの開幕戦を視察しました。日本サッカーの発展のためには女子サッカーの拡大が必要不可欠であり、トップリーグであるWEリーグの基盤を整えていくことが重要です。引き続き、WEリーグ、なでしこリーグ、そして全国の皆さんと連携して取り組んでいきたいと思ひます。

9/18(水)

## ベトナムサッカー連盟とのパートナーシップ協定再締結調印式(JFAハウス)

9/19(木)

## 第10回理事会(JFAハウス)

# 理事会トピックス



2024年度第10回理事会が9月19日(木)、JFAハウスで開催されました。主なトピックスをお伝えします。  
詳細およびその他の決議・報告事項については、JFA公式ウェブサイトをご参照ください。

## 決議事項

### JFA施設整備助成2024の策定

JFA施設整備助成2024が策定されました。これまではサッカーができる環境を増やすことに注力し、施設の新設を助成の対象としていましたが、サッカーファミリーをさらに増やすため、既存の施設の改修も対象に含めることとしました。また、期間を第一期(2024-27年)と第二期(2028-30年)に分け、申込状況によっては第一期で整備を実施した都道府県サッカー協会でも第二期で再び申請できるようにし、より制度を活用しやすい形に変更しました。

### 2025年度47都道府県サッカー協会(47FA)向け一括補助金の交付

2025年度47FA一括補助金の交付要項が決議され、47FA一括補助金から施設整備を目的とした事前の積立が可能になりました。上限額は17億3832万5269円で、2023年度以降は同額となっています。

### 2025年度9地域サッカー協会(9地域FA)向け一括補助金の交付

2025年度9地域FA一括補助金の交付要項が決まり、「2級審判員指導補助金」の算出根拠のみ変更されました。上限額は3億4447万9000円で、2023年度以降は同額となっています。

### 事案決裁規則の改正

理事会や委員会、事務局の体制変更、2024年6月以降の事案決裁規則および事案決裁規則に関する細則の運用状況から顕在化した課題に対応するため、事案決裁規則を改正することとしました。

## 報告事項

### リスペクト委員会の委員退任

リスペクト委員会の巻誠一郎委員より辞任の申し出があり、2024年8月11日付で退任となりました。

### 審判員表彰

殿堂・表彰委員会から、第33回オリンピック競技大会(2024/パリ)の女子サッカー準決勝(ブラジル対スペイン)で第4の審判員を務めた山下良美主審とリザーブ副審を担当した坊園真琴副審を表彰することが報告されました。

# Information

### 「小学校体育サポート

#### JFA KDDI DREAM KIDS PROJECT」キックオフ

JFAとKDDI株式会社(代表取締役社長CEO:高橋誠)は、子どもたちの基礎体力低下、教職員の負担増などの課題解決を目指し、サッカーを小学校の体育授業に手軽に取り入れられるようにするための共創事業「小学校体育サポート JFA KDDI DREAM KIDS PROJECT」をスタートしました。8月1日には高円宮記念JFA夢フィールドでキックオフイベントを開催し、小学生38人と小学校教職員15人が、プロジェクトの公式アンバサダーを務める榎野智章氏(元日本代表)とともにJFA考案のサッカー授業を体験しました。※8/1発表

### 「JFA ユニクロサッカーキッズin石川」を 輪島市・金沢市で開催

JFAは能登半島地震復興支援プロジェクトの一環として、株式会社ユニクロ(以下、ユニクロ)の特別協賛の下、10月19日に輪島市、翌20日に金沢市で「JFAユニクロサッカーキッズ in 石川」を開催します。被災地の子どもたちが身体を動かしてスポーツを楽しめる機会を創出し、心身のケアにつなげたいというものです。19日の会場ではユニクロの商品の出張販売を、20日の会場では同じくユニクロ製の復興応援チャリティTシャツの販売を予定しています。※9/13発表

### CPAエクセレントパートナーズと

#### JFAソーシャルバリューパートナー契約を締結

JFAは会計・ファイナンスの分野から学習支援や人材交流などのサービスを行っているCPA エクセレントパートナーズ株式会社(代表取締役:国見健介)とJFA ソーシャルバリューパートナー契約を締結しました。サッカーファミリー全体の金融リテラシーを向上させ、サッカー界の組織基盤を強化するため、選手や指導者、審判員、JFAや各都道府県サッカー協会の職員を対象にサッカーがテーマの会計・ファイナンス講座を予定しています。※9/2発表

### JFA×(みずほ)「BLUE DREAM みらいスクール」を 鳥取県からスタート

JFAとJFAメジャーパートナーである株式会社みずほフィナンシャルグループ(執行役社長:木原正裕。以下、(みずほ))は、子どもたちの体力低下という社会課題の解決に向け、子どもたちにサッカーを体験できる場を提供するためJFA×(みずほ)「BLUE DREAM みらいスクール」の取り組みをスタートしました。第1回は9月16日(月・祝)、鳥取県鳥取市のAxisパードスタジアムで開催、今後は全国での開催を予定しています。

### その他の主なニュース

- ・物理療法機器のパイオニアである伊藤超短波株式会社とJFAサポーター契約を締結(7/23)
- ・なでしこジャパンの池田太監督が退任(8/21)
- ・アパホテルとのオフィシャルカレー&オフィシャルごはん契約を締結(9/2)
- ・リスペクトシンポジウム2024に全国から約200人がオンラインで参加(9/14)
- ・「審判交流プログラム」メキシコとカタールから審判員を招聘(メキシコ:9/11~30、カタール:9/18~10/6)

JFA 技術委員長

# 影山雅永さんを マンマーク!

第2回は影山雅永 JFA 技術委員長の登場です。  
S級コーチ養成講習会での思い出話から育成、強化に  
おける47都道府県サッカー協会(以下、47FA)との  
連携や日本のストロングポイントなど話は多岐に及びます。



**宮本** 影さんとの思い出で言えば、2015年夏に  
J-STEP(静岡県)で行われたS級ライセンス  
(※)の国内短期講習。影さんにカウンターア  
タック(トレーニング)にどう落とし込め  
ばいいか相談して、構築してもらった記憶  
があります。

**影山** でも全然うまくいかなくて、振り返り  
のときに「みんなごめん」って謝った(笑)。  
(受講者は)ツネを筆頭にツワモノぞろいで、覚  
悟を持ってやらないといけなかった。チューター  
にとっても“戦い”でしたよ。

**宮本** 「針を振れ」という言葉が印象に残っています。

**影山** よく覚えてるね、会長。「自分はこうしたい、こんなプレーをしてもらい  
たいと思ったらそっちに思い切って針を振ってほしい」「自分の色を出そう。安  
パイを切りに行くんじゃないって針を振ろう」って確かによく言っていた気がし  
ます。

**宮本** 影さんは育成にも長く携わってきた方です。男子も女子もビーチも  
フットサルも全て含めて強い代表をつくっていくには、継続した育成年代の  
強化が必要。SAMURAI BLUEで言えば、これを怠ると“2050年のFIFA  
ワールドカップ優勝”につながっていかないし、日本の皆さんにサッカーを常  
に好きでいてもらえるということにもつながらない。強くあり続けることが  
すごく重要だと考えます。

**影山** 現状、ダメなときをつくっていないのが日本サッカーです。ワールド  
カップに7大会連続で出ていて、常に新しい選手、活躍する選手が現れる。年  
代別の世界大会もそうです。日本全国の指導者の方のおかげでもありますよ  
ね。高いレベルでの努力を維持しながら、レベルをもっと引き上げるには何  
をしていくか。今までやってきているものをさらにレベルアップしなければなら  
ないし、新たにやるものも付け加えなきゃいけない。両方の軸で進めてい  
く必要があります。

**宮本** その意味でも47FAとの連携はますます大事になってきますよね。

**影山** 47FAそれぞれに技術委員長がいて、(加えて)ユースダイレクター、育  
成の責任者もいる。それに2年前からはFAコーチという、プロフェッショナル  
な指導者が各都道府県に入っています。今まではJFAから「こうやっていき  
たいからお願いします」といった形が多かったように思いますけど、地域ごと  
に人口や事情が違うわけですから、これからは指導者も選手も育成し、発展  
していきけるものを(地域から)作り出してもらって、われわれがそれをサ  
ポートできますよという関係性になっていくことが必要だと感じています。

**宮本** サッカーの強化や技術で言うと、今まではフランスやスペインなどか  
ら学んだりしてきました。でもようやく「日本ってこういうサッカーをするよ  
ね」というのが少しずつ、つくり上げられつつありますよね。



**影山** 昨年、U-18代表と一緒にスペイン  
へ遠征したときに、空港でイミグ  
レーションの審査官に「日本のプレッ  
シングはすごい。あのスピードと連動  
感は真似できない」と言われたんです  
よ。おそらくカタールのワールドカップ  
で日本代表とスペイン代表の試合を観た  
んでしょうね。そういうときは「テクニク  
があってポジションするのが日本サッカー  
だろう」と言われるとばかり思っていたのでうれ  
しいですね。ちょっと前までボールを奪えないって  
言われていたんですから。

**宮本** 日本にもデュエルという言葉が浸透して、守備に対する意識が変わっ  
てきた。今、世界的に見てもボールを奪うサッカーになってきて、奪い切ると  
ころのフォーカスは森保さんも発信しているし、育成年代でも大事にしよう  
と言ってきている。この数年間の積み重ねがつながってきて、そういう指標  
ができつつあります。

**影山** 今後の取り組みで言えば、われわれは海外の事例をもっと勉強してい  
くべきだとも感じます。コピー&ペーストではなく、アイデアを取り入れる、持  
ち込むというところはもっとやったほうがいいのかな、と。

**宮本** 影さんや技術委員会ともコミュニケーションを密に取っていただい  
たいですよね。自分が現場に行ったとき、指導者から「もっとこうしてもらいた  
い」などと話があったら、「じゃあやみましょう!」ってパパッと動けるような  
スピード感、カジュアルさを大切にしたいと思っています。

**影山** ツネから出てくるオーダーに応えつつ、僕らからもやりたいことを相談  
しながらどんどん進めていきたいですね。

※プロチームおよびプロ選手の指導ができるJFA最上位のライセンス。日本の指導者のリー  
ダーとなる人材の育成も担っている。

影山雅永 (かげやま・まさなが)

1967(昭和42)年5月23日生まれ。福島県出身。  
筑波大学大学院卒業後、古河電気工業を経てジェフユナイテッド市原、浦和レッドダイヤモ  
ンス、ブランメル仙台でプレー。1986年、つくば市立桜南小学校から指導者のキャリアをス  
タート。マカオ代表やJ2ファジアーノ岡山の監督などを務めた後、2015年にJFA 地域ユ  
ースダイレクター、17年からはユース年代の日本代表監督を歴任。22年からJFAユース育成ダ  
イレクターとして育成年代の強化に尽力。2024年3月より現職。



誌面には掲載しきれなかった話も…  
▶ 対談動画公開中!



※次号は2024年11月発行予定/本誌クレジット表記のない写真: ©JFA、©JFA/PR、©Jリーグ、©WEリーグ



発行:公益財団法人日本サッカー協会

〒112-0004 東京都文京区後楽1丁目4-18 トヨタ東京ビル 電話: 050-2018-1990 HP: <https://www.jfa.jp>

